

会議議事録

事業名	平成26年度 「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成研修モデルの開発・実証
代表校	一般社団法人 全国専門学校教育研究会

会議名	第4回 評価委員会
開催日時	平成26年12月1日(月) 13:00～14:00(1h)
場所	グランドヒル市ヶ谷 2F「琵琶」
出席者	<p>①委員</p> <p>小野 紘昭 (一財)職業教育・キャリア教育財団 理事 芦澤 昌彦 学校法人河原学園 自己点検評価室室長 岡村慎一 専門学校YICグループ 理事 伊藤慎二郎 学校法人穴吹学園 理事・副校長 (計4名)</p> <p>②オブザーバー</p> <p>永井真介 富山情報ビジネス専門学校 校長 飯塚正成 有限会社ザ・ライスマウンド 代表取締役 (計2名)</p> <p>③事務局</p> <p>下島 耕一 鹿児島情報ビジネス専門学校 常務理事 花田香央理 同上 (計2名)</p> <p style="text-align: right;">参加者合計8名</p>
議題等	<p>1 ID 事業内容の最終確認 (岡村委員)</p> <p>1.1 現在の進捗状況報告</p> <p>・全専研会員校の教員向けにアンケートを実施。 回答者数約300人のうち、約2割程度がIDを知り、意識を持っている。その中でもIDの考え方をもちて授業を行っているという回答も多数みられた。</p>

- ・テキストについて

約 50 頁になる予定。そのうち 7 割程度が完成しているが、職業実践専門課程との関連性が多少不足しているため、そこに重点を置きながら現在進めている。

1.2 評価委員の評価項目

①ID を使った教員研修モデルが「職業実践専門課程を担う教員の養成」に対して有効性があるかどうか

②実証講座そのものについての評価

授業目標の明確化⇒ロードマップ・授業計画の作成⇒授業の実施

・12月18日、19日開催の実証講座では、実証講座目標6点を評価項目とする。(資料7頁)

1.3 職業専門課程と ID の関係 (資料5頁)

- ・来年度以降は「社会・企業等との連携⇒教育課程編成委員会⇒IDを取り入れた授業の実施」を大きな枠組みとして取り組む。

- ・「育てる人材」「欲しい人材」については教育課程編成委員会における項目の為、

1.4 その他

- ・実証講座4項目について、ガニエの9教授事象かケラーのARCSモデルは、教養的に抑えるか、どちらかに絞り込んだ方が良いのではないか？

⇒今回のID研修にとってガニエは骨格づくりの理論であり、コンテンツの色合いとしてケラーの理論を取り込んでいる。

⇒IDの定義をより明確に記載し、ガニエ・ケラー両理論との関連性を強く明示する。

- ・目標の明確化は、教員が経験的に身につけ、IDを意識せずとも授業に取り組んでいる教員もいる。IDの手法(ステップ)を使えば、教員の個人差を解消できるようになる。(レベルの底上げ)

- ・資料のコピーライトはすべて削除する。

2 AL 事業内容の最終確認（伊藤委員）

2.1 現在の進捗状況報告

成果物については現在作成中。

この会議後の第4回AL委員会にて概要確認をおこなう。

2.2 学習指導要領改定について

- ・文科省より、中央教育審議会（中教審）に諮問された。
- ・「子供が自ら課題を見つけて解決を図る」学習（AL）の指導法や評価方法を知識偏重から思考力・判断力・主体性を重視する方針へ。
- ・今後ALのような指導を受けた学生たちを、従来とは異なるポイントで評価しなければならない。

2.3 評価委員の評価項目

- ①当研修モデルが「職業実践専門課程を担う教員の養成」に対して有効性があるかどうか
 - ②開発の目的（4項目）に則して実証講座がなされたか
 - ③2.2を踏まえて、知識量で問わない評価との関連性
- 以上2点をポイントに評価をしていただきたい。

2.4 その他

- ・IDに比べてALは認知度が低いなか、アクティブラーニングとアクションラーニングを初年度から研修にとりこむのは難しいのではないか。

⇒アクティブラーニングについては、事前学習のeラーニングにより一通り学習する。そのうえで、実証講座1日目ではALセッションを実践として行う。

- ・AL授業は大学において補助金が支給されるため、商売として売り込まれる事例もある。そういったALとは違う定義を明示できれば大きな成果なのではないか。

- ・教員が学生に対して、能動的に学習に取り組ませる授業ができるようになる研修としての裏付け

- ・アクティブラーニングとアクションラーニングの違いを明示する必要があるのではないか

⇒詳細については第4回AL分科会において再討議。

3 評価委員会の役割・評価項目・成果物の確認

3.1 評価項目

- ①実証事業の評価
- ②実証講座と職業実践専門との関連性の評価

3.2 成果物

- ①総論（芦澤委員）
- ②IDの評価（芦澤委員）
- ③ALの評価（小野委員）
- ④次年度の要望（芦澤委員）
- ⑤まとめ（芦澤委員）

以上